

令和 5 年 9 月 5 日  
情報システム課 総務・企画 G / 基盤 G  
担当者: 新上、平井  
ダイヤルイン: 087-832-3141  
joho@pref.kagawa.lg.jp

## 生成 AI の業務利用を開始します

- 9月8日(金)から、全庁での生成 AI の業務利用を開始します。
- 業務利用に当たっては、県の専任職員が内製で作ったシステムを使用します。
- 同時に、「庁内業務 QA チャットボット」(内製システム)の実証実験を一部の業務分野から開始します。

### ◆ 生成 AI とは

- ChatGPT 等の生成 AI は、質問や作業指示を投げかけて、その結果を出力させるという対話型のやり取りを通じて、様々な分野における情報収集をはじめ、調査分析、文章の翻訳・添削・校正・要約のほか、Excel の関数やマクロの作成、プログラム言語を使ったプログラミングなどができることから、行政分野での活用が期待できます。

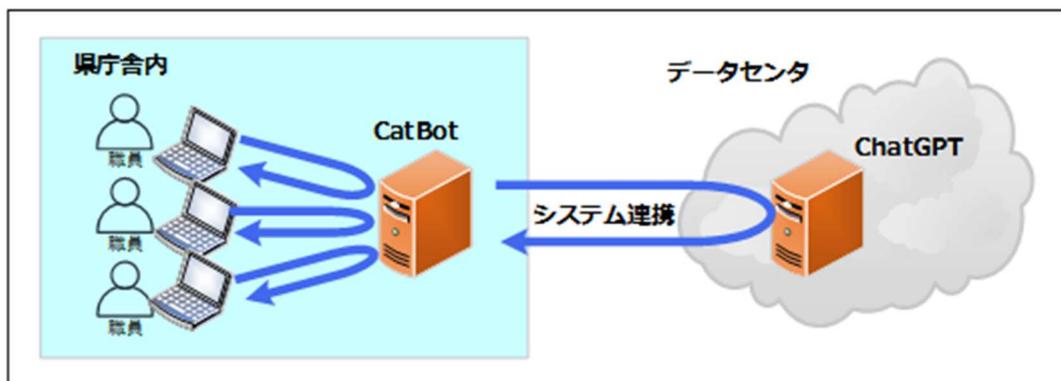
### ◆ これまでの経緯

- 県では、6 月末に「生成 AI 活用検討ワーキンググループ」を設置するとともに、実際に生成 AI を使用して検証等の作業を行う「生成 AI 活用検討チーム」(23 名の有志職員)を公募で選定し、活用策の検討や利用ガイドラインの策定作業を進めてきました。

### ◆ 取組その① <ChatGPT を内製システム経由で利用開始>

- ワーキンググループにおいて活用事例や利用ガイドラインが取りまとまったので、これらを職員に示した上で、9月8日(金)から、全庁での庁内業務における生成 AI の利用を開始します。
- 生成 AI の業務利用に当たっては、職員開発により整備したシステムを使用します。
- このシステムは、裏側でインターネット上の ChatGPT サービスとシステム連携されており、このシステムの画面上で入力した情報はインターネットを経由して ChatGPT に転送され、そこで生成された文章がこのシステムの画面に返される仕組みとなっています。

【県の内製システムのイメージ】



## 【システムの使用例】

- ① プロンプト入力フォームに次の文章を入力し、送信ボタンをクリックする。

外国において大きな効果が上がっている子育て支援の政策の中から主なものを3つ選び、その概要を簡潔に教えてください。

<入力文>

外国において大きな効果が上がっている子育て支援の政策の中から主なものを3つ選び、その概要を簡潔に教えてください。

※ プロンプトとは：ユーザが生成 AI に対して入力する指示事項や質問文のこと。

- ② 生成された文章が出力される。

入力されたプロンプト

トークン数: 68

外国において大きな効果が上がっている子育て支援の政策の中から主なものを3つ選び、その概要を簡潔に教えてください。

トークン数: 531

1. スウェーデンの育児休暇制度: スウェーデンでは、子供が生まれた際に両親に対して共同で最大480日間の育児休暇を与える制度があります。この制度では、親は子供が1歳になるまでの390日間を自由に分け合うことができ、そのうちの90日間は特に父親に割り当てられます。この制度により、父親も積極的に子育てに参加することが奨励され、家庭内の負担を均等に分担することができます。
2. ノルウェーの無料保育制度: ノルウェーでは、子供が1歳になると保育園や幼稚園での教育が無料で提供されます。また、保育園の利用時間も柔軟であり、親が働いている間に子供を預けることができます。この制度により、親は仕事に専念することができ、子供は社会的なスキルを身につける機会を得ることができます。
3. フランスの家族手当制度: フランスでは、子供を持つ家庭に対して家族手当が支給されます。この手当は、子供の年齢や家庭の所得に応じて支給額が変動し、子供が成長するにつれて増額されます。また、特に低所得家庭には追加の支援が提供されます。この制度により、子供を持つ家庭が経済的な負担を軽減し、子供の健やかな成長を支援することができます。

生成された文章

## ◆ 取組その② < 庁内業務 QA チャットボットの実証実験を開始 >

- 同時に、庁内事務手続等の各種規程、マニュアル、QA 集などを基に、職員からのチャットによる質問に答えるシステムである「庁内業務 QA チャットボット」(こちらも職員による内製システム)の実証実験を開始します。
- このチャットボットについては、あらかじめシステムに登録しておく規程・QA 集等の登録の単位(どこで分割して一つの登録とするか)や、登録された内容(表現)のわかりやすさの違いなどによっても回答の精度が異なってくることから、まずは会計事務、旅費事務、パソコン・セキュリティ関係事務等の一部の業務分野から実証実験を開始し、利用職員からのフィードバック等により、より適切な回答を引き出せるようにするための試行錯誤を繰り返していく予定です。